



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2015年(平成27年)10月25日号 No.1675

目次

■ 2015年1～9月のロシア経済と鉱工業生産	1
一 経済不振は底を打ったのか	
■ 『ロシアNIS調査月報』2015年11月号のご紹介	6
■ モスクワほっとニュース	7
日本製美容サロン用品を取り扱うタンデム社	7
■ トピックス	8
NECがロシア通信大手に通信システムを提供	8
日本のゴミ処理技術をロシアへ輸出	8

2015年1～9月のロシア経済と鉱工業生産 一 経済不振は底を打ったのか

はじめに

ロシア連邦国家統計局より2015年1～9月のロシアの主要経済指標が発表されたので、本速報ではそれらを図表にまとめてお届けする。鉱工業生産については特に詳しく紹介する。なお、本速報作成時に公開されていなかった情報があるため、一部データは2015年1～8月のものとなっている点にご注意いただきたい。

ロシア連邦経済発展省発表の暫定推計値によれば、2015年1～9月のロシアの国内総生産(GDP)は前年同期比で3.8%の減少となった。その他の指標を見ても、鉱工業生産の3.2%減少をはじめ、すべての指標においてマイナスを示している(農業生産は唯一増加したが、増加率は鈍化した)。

鉱工業生産を分野別に見ると、鉱業(前年同期比0.3%増)に比べ製造業(5.2%減)が大きく減少している。2015年1～9月、製造業分野の中で、とくに大きく減少したのは機械・設備(13.4%減)と輸送機器(15.6%減)であった。そのうちの輸送機器を具体的に見ると、乗用車は前年同期比で24.5%減少、バスは14.8%減少、トラックは20.3%減少しており、経済不振の一因となっている。

ロシアの専門家の一部間では、「すでに景気は下げ止まっており、2016年には成長に転ずる」という強気な発言が散見される。しかし、今回の統計を見る限りでは、まだ楽観は許されないだろう。